

2022 年度秋の三者総会 議案書

令和 3 年 10 月 11 日 (月)～10 月 15 日 (金) 開催

本議案書は、令和 3 年 10 月 11 日 (月)～10 月 15 日 (金) 開催の、2022 年度秋の三者総会に提出されたものである。

目次

1	2021 年度決算	1
1.1	収支の概要	1
1.2	収入	2
1.3	支出	3
2	2022 年度予算案 [’21/10/01 現在]	4
2.1	収入予定 (概算)	4
2.2	支出予定	6
3	2022 年度原子核三者若手夏の学校開催案	8
3.1	概要	8
3.2	オンライン案	9
3.3	ハイブリッド案	10
3.4	予算案	12
3.5	FAQ	13

1 2021 年度決算

2021 年 8 月 30 日

文責：矢田貝祥貴 (大阪市立大学)

2020 年度決算書を以下の通り提出いたします。何卒ご承認をよろしくお願い申し上げます。

1.1 収支の概要

- (+) が収入を、(-) が支出を表す。

項目	本年度決算	前年度決算
参加登録費	+¥0	+¥0
素粒子論グループ援助金	+¥150,000	+¥56,760
基研援助金	+¥99,420	+¥66,000
個人からの援助金	+¥0	+¥0
前年度繰越し金	+¥806,575	+¥801,775
旅費補助(招待講師)	-¥0	-¥0
旅費補助(学生)	-¥0	-¥0
ポスター印刷費	-¥99,420	-¥66,000
役職校支出	-¥145,662	-¥51,960
次年度繰越し金	¥810,913	¥806,575

1.2 収入

- (1) 参加登録費：¥0
(2) 外部団体からの援助・協賛金：¥249,420

団体名	内容	申請額	援助額	差額
素粒子論グループ	運営費	¥150,000	¥150,000	¥0
基研	ポスター印刷費	¥99,420	¥99,420	¥0
高エネルギー研究者会議	協賛	¥0	¥0	¥0
仁科加速器センター	協賛, 原子核研究「夏の学校特集号」出版費	¥0	¥0	¥0
KEK	協賛	¥0	¥0	¥0
RCNP	協賛	¥0	¥0	¥0
合計		¥249,420	¥249,240	¥0

- (3) 前年度繰越し金：¥806,575

収入合計：(1) + (2) + (3) = ¥1,055,995.

1.2.1 素粒子論グループよりいただいた援助金の用途

素粒子論グループよりいただいた援助金 ¥56,760 の用途の(申請時の)内訳を次の表にまとめる。

項目	金額
役職校支出	¥145,662
合計	¥145,662

1.2.2 基研からの援助金の内訳

基研よりいただいた援助金 ¥66,000 の内訳を次の表にまとめる。

項目	金額
ポスター印刷費	¥99,420
合計	¥99,420

1.3 支出

- (1) 旅費補助：¥0
 (2) ポスター印刷費：¥99,420*¹
 (3) 役職校支出合計：¥145,662 (支出の内訳については次の表および次節を参照)

役職名	予算	決算	差額	前年度決算
三者				
センター校	¥4,000	¥880	-¥3,120	¥220
事務局校	¥0	¥0	¥0	¥0
準備校	¥47,992	¥47,992	¥0	¥50,270
企画校	¥93,000	¥95,170	¥2,170	¥0
素粒子論パート				
事務局校	¥0	¥0	¥0	¥0
準備校	¥2,000	¥1,620	-¥380	¥1,470
講義録校	¥0	¥0	¥0	¥0
原子核パート				¥0
センター校	¥0	¥0	¥0	¥0
準備校	¥0	¥0	¥0	¥0
ハラスメント対策委員	¥0	¥0	¥0	¥0
合計	¥146,992	¥145,662	-¥1,330	¥51,960

支出合計：(1) + (2) + (3) = ¥245,682

次年度繰越し金：(収入合計) - (支出合計) = ¥810,913 (対前年差 + ¥4,338)

1.3.1 各役職校の支出内訳

- 三者センター校 (大阪市立大学)

項目	予算	決算	差額	前年度決算
振込手数料	¥1,000	¥880	-¥120	¥220
賞状代	¥2,000	¥0	-¥2,000	¥0
賞状輸送代	¥1,000	¥0	-¥1,000	¥0
合計	¥4,000	¥880	-¥3,120	¥220

振込手数料：ホテル利用料、および旅費補助の支払いにかかる振込手数料

賞状代：研究会で優れた発表を行った人への賞状代

賞状輸送代：賞状の輸送代

- 三者準備校 (京都大学)

項目	予算	決算	差額	前年度決算
消耗品代	¥2,629	¥2,629	¥0	¥0
郵送費	¥22,640	¥22,640	¥0	¥0
備品送料	¥0	¥0	¥0	¥1,510
会場下見代	¥0	¥0	¥0	¥48,760
Zoom	¥22,723	¥22,723	¥0	¥0
合計	¥47,992	¥47,992	¥0	¥50,270

消耗品代：運営に必要な文具、およびポスター送付にかかる封筒などの物品購入費

郵送費：各大学へのポスター郵送費

備品送料：次年度準備校への備品運搬費

会場下見代：会場下見にかかる旅費

Zoom代：Zoomのアカウント作成費

- 三者企画校 (総合研究大学院大学)

項目	予算	決算	差額	前年度決算
Remo代	¥93,000	¥95,170	¥2,170	¥0
合計	¥93,000	¥95,170	¥2,170	¥0

Remo：ポスター発表に用いた Remo のアカウント作成費

- 素粒子論パート準備校 (神戸大学)

項目	予算	決算	差額	前年度決算
機材送料	¥2,000	¥1,620	-¥380	¥1,470
合計	¥2,000	¥1,620	-¥380	¥1,470

機材送料：夏の学校会場および次年度担当校への機材運搬費

2 2022 年度予算案 [’21/10/01 現在]

文責: 渡辺証斗 (北海道大学)

2.1 収入予定 (概算)

- (1) 参加登録費 (参加者想定:220名) : $¥0 \times 220 = ¥0$
- (2) 外部団体からの援助・協賛金 : ¥170,000

団体名	内容	申請額
素粒子論グループ *1	運営費	¥70,000
基研 *2	講師旅費 (学生発表者含む), ポスター印刷費	¥100,000
高エネルギー研究者会議	協賛	¥0
仁科加速器センター *3	協賛, 原子核研究「夏の学校特集号」出版費	出版費
KEK	協賛	¥0
RCNP	協賛	¥0
合計		¥170,000

*1 本秋季学会にて援助申請を行った。

*2 2020年度1月頃申請予定。

*3 次回春季学会にて申請予定。

(3) 前年度繰越金 : ¥810,913

収入合計 : (1) + (2) + (3) = ¥980,913.

2.2 支出予定

- (1) 旅費補助：¥0
- (2) ポスター印刷費：¥100,000
- (3) 各役職校支出：¥58,100 (詳細な内訳は次節に記載)

役職名	オンライン案	1部オフライン案	前年度決算
三者			
センター校	¥2,000	¥2,000	¥880
事務局校	¥0	¥0	¥0
準備校	¥49,100	¥64,390	¥47,992
企画校 *1	¥0	¥0	¥95,170
素粒子論パート			
事務局校	¥0	¥0	¥0
準備校	¥3,000	¥14,000	¥1,620
講義録校	¥0	¥0	¥0
原子核パート			
センター校	¥0	¥0	¥0
準備校	¥0	¥4,000	¥0
ハラスメント対策委員	¥0	¥0	¥0
合計	¥54,100	¥184,360	¥145,662

支出合計：(1) + (2) + (3), = ¥154,100(オンライン)
 = ¥284,360(一部オフライン)

次年度繰越し金：(収入合計) - (支出合計) = ¥826,813(オンライン)(対前年差 + ¥15,900)
 = ¥696,553(一部オフライン)(対前年度 - ¥114,360)

*1 2020年度より新設。

2.2.1 各役職校の支出内訳

- 三者センター校 (北海道大学)

項目	オンライン	1部オフライン	前年度決算
振込手数料	¥2,000	¥2,000	¥880
賞状代	¥0	¥0	¥0
合計	¥2,000	¥2,000	¥880

振込手数料：ホテル利用料、および旅費補助の支払いにかかる振込手数料

賞状代：研究会で優れた発表を行った人への賞状代

- 三者事務局校 (筑波大学)
 予算申請無し。
- 三者準備校 (大阪大学)

項目	オンライン	1部オフライン	前年度決算
施設使用料	¥0	¥15,290	¥0
施設予約金	¥0	¥0	¥0
コピー代	¥5,000	¥5,000	¥0
消耗品代	¥10,000	¥10,000	¥2,629
備品送料 *1	¥0	¥0	¥0
郵送費	¥20,000	¥20,000	¥22,640
ポスター制作費 *2	¥0	¥0	¥0
Zoom	¥14,100	¥14,100	¥22,723
合計	¥49,100	¥64,390	¥47,992

施設使用料：講義・研究会などに使用する部屋の使用料

予約費：ホテル仮予約のために必要な経費

コピー代：書類のコピーにかかる費用（ポスター印刷は除く）

消耗品代：運営に必要な文具、およびポスター送付にかかる封筒などの物品購入費

備品送料：次年度準備校への備品運送費

郵送費：各大学へのポスター郵送費

ポスター制作費：ポスターデザイン依頼費

zoom：Zoomのアカウント作成費

*1 これまでは慣例的に担当役職校が支払いを行っていたため、予算には計上されていなかった。

*2 基研からの補助で賄うため、三者準備校の予算には計上していない。

- 三者企画校（東京工業大学）

項目	オンライン	1部オフライン	前年度決算
Remo代	¥0	¥0	¥95,170
合計	¥0	¥0	¥95,170

Remo代：ポスター発表に用いたRemoのアカウント作成費

- 素粒子論パート事務局校（九州大学）

予算申請無し。

- 素粒子論パート準備校（九州大学）

項目	オンライン	1部オフライン	前年度決算
録音・録画機材代	¥0	¥6,000	¥0
消耗品代	¥0	¥3,000	¥0
機材送料	¥3,000	¥5,000	¥1,620
合計	¥3,000	¥14,000	¥1,620

録音・録画機材代：録音・録画保存用SDカードなどの購入費

消耗品代：ホワイトボードマーカーなどの購入費

機材送料：夏の学校会場および次年度担当校への機材運送費

- 素粒子論パート講義録作成校 (九州大学)
予算申請無し。
- 原子核パートセンター校 (名古屋大学)
予算申請無し。
- 原子核パート準備校 (新潟大学)

項目	オンライン	1部オフライン	前年度決算
消耗品代	¥0	¥3,000	¥0
印刷代	¥0	¥1,000	¥0
合計	¥0	¥4,000	¥0

消耗品代：ホワイトボードマーカー、クリーナー、電池などの購入費

印刷代：研究会で使用する資料の印刷代

- ハラスメント対策委員
予算申請無し。

3 2022年度原子核三者若手夏の学校開催案

2021年9月30日

文責: 青木匠門、伊藤広晃 (大阪大学)

3.1 概要

来年度、夏の学校を開催する際の懸念事項は新型コロナウイルス感染症の流行である。その流行具合によっては対面での開催が可能かどうかが変わってくる。これに対応するために以下ではオンライン案とハイブリッド案(対面とオンラインを合わせたもの)の2つを提案する。これらの案のどちらかを採用するかは2022年4月時点での国内の感染拡大状況を鑑み、2022年4月に総合的に判断する。

3.1.1 開催日時

開催日程はどちらの案も**2022年8月6日(土)-9日(火)の4日間**とする。例年は5日間(移動日を含めると6日間)であったが、総会によって4日間に短縮されることが決定された。

この日程を選定した理由を説明する。理由は4つあり、(1)サマーチャレンジとCNS International Summer Schoolに被らないこと。(2)お盆を避けること。(3)帰宅日が不要であること。(4)素粒子物理学の進展となるべく被らないことである。

(1)について、例年サマーチャレンジは8/16から28の間に、CNSはお盆明け5日間または8月末の一週間に開催されている。これらを避けるとなると、お盆以前に開催することが望ましい。

(2)について、お盆(8/11-16)では種々の交通機関や研究施設が利用できないことが予想される。したがってこの機関での開催も避けるべきである。ゆえに候補は8/10までに絞られる。

(3)について、例年、夏の学校の最終日は帰宅日であり、オンラインまたはハイブリッド開催では不要である。ゆえに4日間の開催に決定した。

最後に(4)について、素粒子物理学の進展は毎年7月末から8月初旬にかけて行われる。これとなるべく被らないようにすると8月初頭は避けるべきである。以上を総合してお盆直前の4日間である2022年8月6日

(土) から 9 日 (火) に決定した。

3.1.2 開催場所

オンラインの場合は Zoom、ハイブリッドの場合対面参加者は大阪大学の南部ホールと講義室で、オンライン参加者は Zoom にて行うことを予定している。詳細は後述。

3.1.3 参加人数

近年開催された素粒子若手オンライン研究会の参加者数を鑑みて、本研究会では 200 名から 300 名程度の参加者を見込んでいる。

3.1.4 開催内容

招待された講師による講義、口頭発表、ポスター発表、懇親会を行う。その実施方法については各案で異なる(後述)。

3.2 オンライン案

3.2.1 開催条件

この節ではオンラインの開催案について述べる。この案は新型コロナウイルス感染症の流行が拡大し、感染を防ぎながらの対面での開催が難しいと判断された場合に採用される予定である。具体的には 4 月時点で大阪大学における活動基準の項目 (4) 会議・イベントと項目 (5) 課外活動において活動基準レベルが 0 でない、もしくはいずれかの都道府県で緊急事態宣言や蔓延防止措置がとられている状況において採用される。

ただし感染の状況によっては会場を借りることができない場合があるため、4 月以降においても、大阪大学理学研究科と相談の上、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によってはこちらの案を採用する。

3.2.2 開催場所

- 講義および口頭発表：Zoom
- 懇親会およびポスター発表：Zoom
- 質問・議論および交流：Slack

Zoom は Zoom ビデオコミュニケーションズ社が提供する Web 会議サービスである。これは主に講義と口頭発表、ポスター発表と懇親会にて利用される予定である。

Slack は Slack Technologies 社が提供するチームコミュニケーションツールであり、グループチャット、1 対 1 のメッセージング、音声通話を行うことができる。これは夏の学校開催期間前後を通してワークスペースを開設することで、発表時の質問受付や自由な議論、参加者の交流を促すために利用される予定である。

3.2.2.1 講義、口頭発表

講義と口頭発表は Zoom にて行う。口頭発表は Zoom のブレイクアウトルームを複数作り、運営側から各部屋に 1 人の司会進行を割り当てる。講師及び発表者は自分の端末を用いて講演を行う。聴衆は Zoom 上でマイクを用いるか、もしくは Zoom や Slack のチャット機能を用いて質問を行う。

表彰は行わない。

3.2.2.2 ポスター発表

ポスター発表は Zoom のブレイクアウトルームを用いる。発表者ごとに部屋を割り当て、聞きたい発表の部屋に聴衆が移動する形にする。発表者はポスター発表の時間帯のうち前半は自分の部屋にて発表を行わなければならないが、後半は自分の部屋を離れて自分以外の発表を聴いても構わないとする。

2021 年度の夏の学校では Remo を用いたが、参加者から Zoom のブレイクアウトルームでの開催を望む声が多く上がったため、2022 年度は Zoom のブレイクアウトルームで行うこととする。

表彰は行わない。

3.2.2.3 懇親会

懇親会は Zoom のブレイクアウトルームで行う。具体的には研究会後の時間帯で、ランダムに割り当てられた部屋にて参加者が交流を行う。このとき部屋の移動や Zoom への入退室は自由とする。

3.2.3 費用

想定される費用は Zoom の利用料金のみである。プロアカウントにクラウドストレージと大規模ミーティングのオプションをつけたものを一つ用意する。

3.2.3.1 旅費補助

本案はオンラインで開催するため旅費の補助は必要ない。

3.2.3.2 参加費

素粒子論グループおよび基礎物理学研究所からの支援で全費用を賄うことができるため、参加費は無しとする。

3.3 ハイブリッド案

3.3.1 開催条件

この案は、「4 月時点で阪大における活動基準の項目 (4) 会議・イベントと項目 (5) 課外活動において活動基準レベルが 0 であり、かつ全国で緊急事態宣言や蔓延防止措置が発令されていない」ことを条件として開催する。

ただし、4 月以降においても、大阪大学理学研究科と相談の上、新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン案に移行する可能性もある。

3.3.2 開催場所

Zoom に加えて、対面で大阪大学の講義室及び南部ホールにて開催する。阪大の施設を用いた理由としては、施設使用料が安いこと、そして準備校 (阪大) から近く調整や連携が取りやすいことが挙げられる。

3.3.2.1 講義、口頭発表

講義と口頭発表は Zoom と大阪大学にて行う。オンライン参加者の発表方法はオンライン案と同様である。対面参加者は大阪大学理学部棟の H 棟にて Zoom を介して発表を行う。この際、発表者の講演や対面の聴衆の質問は PC に接続したマイクを用いて行うことで、対面参加者とオンライン参加者間で共有することが可能である。

講師が Zoom または大阪大学のどちらで講義を行うかは、講師の都合による。仮に大阪大学で講義を行う場合、講師の旅費は繰越金で負担する。また、現地にて発表できる者を優先的に口頭発表者に振り分け、そうでない者は原則ポスター発表に振り分ける。

共通講義は南部ホールで行い、収容人数の面から現地参加者を 142 人に制限する。パート講義の現地参加者は素粒子パートを 90 人、原子核パートを 35 人に制限する。パラレルセッションは行わない。

表彰は行わない。

3.3.2.2 ポスター発表

ポスター発表はオンライン案と同様に Zoom にて行う。対面参加者は帰宅後に Zoom へ参加する形を想定している。

表彰は行わない。

3.3.2.3 懇親会

懇親会もオンライン案と同様に基本的に Zoom で行う。対面参加者は帰宅後に Zoom へ参加する形を想定している。ただし運営としては対面参加者の有志が対面の懇親会を、国の感染対策の指針に留意した上で、企画して行うことを禁止しない。

3.3.3 費用

想定される費用は南部ホール、Zoom の利用料金のみである。南部ホールを 1 日目の午後に用い、そして学外の方々も参加するため 13,900 円 (税抜) がかかる。Zoom はオンライン案と同様にプロアカウントにクラウドストレージと大規模ミーティングのオプションをつけたものを一つ用意する。

3.3.3.1 旅費補助

対面参加者かつ口頭発表を行わない者に対しては、遠方からの移動を制限する目的で旅費の補助は行わない。これは宿泊を禁止するものではないが、各自でホテルの予約を取り、宿泊費を賄うことになる。

対面参加者かつ口頭発表を行う者に対しては、感染拡大状況を鑑みて、4 月の時点で旅費の補助を検討する。ただし、旅費は繰越金から捻出される。

3.3.3.2 参加費

素粒子論グループおよび基礎物理学研究所からの支援で全費用を賄うことができるため、参加費は無しとする。

3.4 予算案

3.4.1 オンライン予算案

項目	本予算案	前年度予算案
施設使用料	¥0	¥
施設予約金	¥0	¥0
コピー代	¥5,000	¥5,000
消耗品代	¥10,000	¥10,000
備品送料	¥0	¥0
郵送費	¥20,000	¥20,000
会場下見代	¥0	¥0
レンタカー代	¥0	¥0
ポスター制作費	¥0	¥0
Zoom	¥14,100	¥8,100
合計	¥49,100	¥43,100

表1 オンライン予算案

施設使用料：講義・研究会などに使用する部屋の使用料（税込）

予約費：ホテル仮予約のために必要な経費

コピー代：書類のコピーにかかる費用（ポスター印刷は除く）

消耗品代：運営に必要な文具、およびポスター送付にかかる封筒などの物品購入費

郵送費：各大学へのポスター郵送費

会場下見代：会場下見にかかる旅費

レンタカー代：夏の学校期間中に借りるレンタカー代、ガソリン代

ポスター制作費：ポスターデザイン依頼費

zoom：プロアカウント＋クラウドストレージ＋大規模ミーティングのオプション

3.4.2 ハイブリッド予算案

項目	本予算案	前年度予算案
施設使用料	¥15,290	¥0
施設予約金	¥0	¥0
コピー代	¥5,000	¥5,000
消耗品代	¥10,000	¥10,000
備品送料	¥0	¥0
郵送費	¥20,000	¥20,000
会場下見代	¥0	¥0
レンタカー代	¥0	¥0
ポスター制作費	¥0	¥0
Zoom	¥14,100	¥8,100
合計	¥64,390	¥43,100

表2 ハイブリッド予算案

- 施設使用料：講義・研究会などに使用する部屋の使用料（税込）
- 予約費：ホテル仮予約のために必要な経費
- コピー代：書類のコピーにかかる費用（ポスター印刷は除く）
- 消耗品代：運営に必要な文具、およびポスター送付にかかる封筒などの物品購入費
- 郵送費：各大学へのポスター郵送費
- 会場下見代：会場下見にかかる旅費
- レンタカー代：夏の学校期間中に借りるレンタカー代、ガソリン代
- ポスター制作費：ポスターデザイン依頼費
- zoom：プロアカウント＋クラウドストレージ＋大規模ミーティングのオプション

3.5 FAQ

- Q. コロナ禍の状況が改善したとして、対面で開催できないのですか？
- A. 先の見えない状況で、一年以上前から準備するのが困難だからです。

- Q. ハイブリッド形式の場合、オンライン参加者と対面参加者のコミュニケーションは可能でしょうか？
- A. 研究発表中の質疑応答については Zoom を介して可能です。それ以外の交流については検討中です。

- Q. ハイブリッド形式でパラレルセッションを行わないのはなぜですか？
- A. 素粒子パートの部屋を二つ確保するのが困難だからです。